

第1回通学区域制に関する有識者会議の概要について

1 日 時 令和6年6月4日（火） 午前10時から正午まで

2 場 所 徳島県庁 10階 大会議室（徳島市万代町1丁目1番地）

3 出席者

（1） 委員 17名中15名出席（欠席2名）

（2） 県 教育長、教育次長、教育創生課長 ほか

4 議事の概要

（1）委員の互選により、佐古秀一委員が座長に、青木正繁委員が副座長に、それぞれ選出された。

（2）事務局から、現行の通学区域制について説明が行われた。

（3）事務局から、前回の通学区域制の見直し検証結果について説明が行われた。

（4）委員による意見交換が行われた。

5 意見交換における主な発言概要

【抜本的な見直し】

○学区内外の点数差について、現段階では、子どもたちに説明できないのではないかな。平等な環境を与えてほしい。高校も学校の特色を全面的に打ち出し、子どもたちに興味を持ってもらえるような状況を作るべきである。

○交通の便が良く、距離的に近い高校が学区外となっているため、公平な競争ができておらず、進路選択の幅が狭まっていると感じる。不公平感なく、進路選択できる制度が必要。

○進路先を選択するのは子どもたちであり、その進路先が居住地によって制限されることが課題。子どもたちの願いが実現できるような学区制の在り方について決定できるよう、この会議の中でしっかりと議論していくべき。

○保護者の居住地で合格最低点が異なり、子どもの進路選択の幅が制限されるのは、どのような理由であれ許されることではない。本県の私立高校への進学率は極端に少ないが、教育の多様化・高度化の観点から、良質な私学の育成・発展が急務である。

【段階的な見直し】

- 学区制はなくしていく方がよいが、一度になくすと子どもたちへの影響が心配である。現時点では流入率を段階的に上げていく方がよいと考える。学区制を廃止した高知県の事例について教えてほしい。
- 将来的に学区制はなくなっていくと思うが、まずは、流入率を段階的に引き上げ、様子を見てはどうか。徳島市内以外の高校に、例えば、公務員試験に対応できる学科を作るなど、子どもたちに進学を希望してもらえる高校になってほしい。
- 地元高校に通える環境も必要だが、学力に合わせて高校を選択できるようにすることが問題の本質。志望校を決める際には、交通手段など自分の生活スタイルにどう合わせていくかも考えている。即撤廃ではなく流入率の引き上げなど段階的な調整が必要。

【慎重な対応】

- 学区制を撤廃すると、不合格者の増加や、地域の学校の衰退に拍車がかかること、経済格差で不利益をうけることがないか懸念。急激な変化は望んでおらず、今後の高校の在り方や現行の入試制度の改善も併せて検討するなど、慎重な対応が望まれる。
- 徳島市立高校は、市内生徒の不本意な遠距離通学の軽減といった趣旨で設立され、これに沿って、定員等の要望を実施。通学区域の変更については、メリットを受ける生徒だけでなく、不利益を被る生徒へ十分に配慮する方向で議論を進めてもらいたい。
- 学校が身近にあるのが理想で、遠距離通学になると通学時間がかかるため、勉学や部活動の時間に制限を受け、最終的に学校に行きづらくなっている生徒もいる。子どもたちの意見も取り入れた議論を進めていくことが必要。
- 教育の機会を確保するためには、必ずしも最良の方法ではないが、何らかの形での学区制存続はやむを得ないと考える。ただし、学区制を維持するにあたっては、各学区に拠点校を整備するなどの教育環境の整備が不可欠である。

【魅力化推進など】

- 学区制について議論する際には、全ての子どもたちが主体的に進路選択できるよう全県的に考える視点と、人口減少による再編統合が進む中、地域とともにある学校づくりをめざすという視点とを合わせ持った上で議論しなければならない。
- 学校としての役割を果たしながら高校の魅力化を図り、地域間格差が生じないよう地域や行政も支援することが必要。中学生の進学先選択のため、進学実績の他、卒業生が社会や地域でどのような役割を担い、活躍しているか発信してほしい。
- 子どもたちの将来の選択の幅を確保すると同時に、各高校の特色化・魅力化に努める方向に改善すべきと考えるが、特効薬がなく大変難しい。特色化・魅力化については、思い切った策を講じる必要があるのではないか。
- 学区制を撤廃すると、10年後には、徳島市内の高校に進学しなければ難関大学に進学できない状況になるのではないかと懸念。撤廃の方向で進めるのであれば、徳島市以外にも拠点校となる新校舎を整備するなど、地域ごとの教育環境を平等にしてもらいたい。